

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	17	課題区分	C	令和4年3月31日
横断的な課題	コロナ下における木曾らしさを活かした地域づくり、「ゼロカーボン」					
地域重点政策	3 木曾の林業・木材産業の振興					木曾地域振興局
実施機関	木曾地域振興局			担当課	所属	林務課
事業名	木曾地域木材産業振興対策推進事業				電話	0264-25-2225
				E-mail	kisochi-rimmu@pref.nagano.lg.jp	
事業の概要等	目的 (目指す姿)	木曾地域の林業、木材産業の高付加価値化を推進することにより、地域産業としての成長を図る。				
	現状と課題	木曾地域は総面積の93%を森林が占める中で、天然木曾檜が希少となる一方、高品質な人工林の木曾ヒノキやカラマツの資源が充実してきている。しかしながら、地域資源の利活用を支える林業や木材産業は、生産性向上や付加価値を高める体制づくりが立ち遅れ、様々な条件整備等は進めているものの、未だ多くは原木のまま県外を中心に移出している現状にある。 こうした中で、平成30年度に地域振興推進費を活用して「木曾地域木材産業振興対策協議会」を設置し、木材の地域循環利用や高付加価値化について検討を行い、推進のためのロードマップを策定した。このロードマップを確実に展開し、高付加価値化を推進する必要がある。				
	内容 (変更後の内容)	○木曾地域木材産業振興対策協議会を開催し、地域の課題解決のためロードマップの進捗、課題等の検討を実施する。 ○木曾の民有林から生産され、地元製材所で乾燥したカラマツの平角材(人工乾燥材)40本を購入し、林業総合センター施設の実大材曲げ試験機により曲げ強度及び曲げヤング係数を測定した。また、年輪巾や比重、横圧縮強度等の木曾の木材の強みにつながる調査を行う。 ○木曾の木材の強み(良さ)に係るPRについては、8月に委託を予定していた事業者(木材関係団体)が被災し、HP作成作業等が受託できないため次年度実施に変更した。				
	事業期間	令和3年6月 ~ 令和4年3月				
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容	実績額	備考		
	木曾地域木材産業振興対策協議会の開催	・進捗管理 ・課題検討	71,241			
	木曾産民有林における人工林カラマツの強度試験	・曲げ強度及び横圧縮試験 ・年輪巾、比重測定	547,800	県林業総合センター共同試験		
	木曾の木材の強みの発信	・HP等デザイン、内容検討 ・ホームページ等制作、掲載	0	次年度実施		
合計		619,041				
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況	
	木曾郡内における製材業の製品出荷量		11,000m ³	13,579	● 達成 ○ 一部達成 ○ 未達成	
			(増加)	(R2)		
事業実績・成果	○新型コロナウイルス感染症のまん延防止のため、令和4年3月に木曾地域木材産業振興対策協議会を書面により開催し、木曾地域の林業・木材産業の高付加価値化に向けたロードマップに基づく取組みの成果・進捗・課題等の検討を行い、併せて次期ロードマップのあり方の意見等を徴収した。また、専門家(林材ジャーナリスト)による流通加工の現地検討を実施した。次年度は、計画的にマップの検討作業を進める。 ○木曾地域の民有林から生産されたカラマツ材について、芯材を含む梁・桁の人工乾燥材の曲げ強度及び曲げヤング係数試験等を県林業総合センターと共同で実施し、販路拡大に必要なPRを行うための基礎資料を得た。 ○高品質製材、非住宅への県産材の利用拡大に必要な「JAS工場認定」に必要な施設整備、取得スケジュールの調整を進め、次年度の取得に向けた準備を進めた。 ○次年度は、木材の需要動向等を踏まえ、木材業界向のホームページ等を作成し、販路の拡大の取組みを強化していく。					
今後の方向性	次期(R5以降)の「木曾地域の林業・木材産業の高付加価値化に向けたロードマップ」を策定し、産・官・学の協働により着実に各種取組の展開を図り、地域材の高付加価値化等を推進する。					